医学博士のメディカル・コラム

病気が教えてくれるもの

第31回　サイエンスの奥にあるもの

「サイエンス」（科学）は、人間が証明し、再現可能であることを前提として成り立つ学問である。人間が発見し、証明したものだけを「サイエンス」と認定し、その枠の中で「正しさ」の判定を行う、ある意味、とてもスケールの小さい学問でもある。

実は、我々の日常には、メカニズムや存在理由がまるで分からなくてお手上げになっている事柄が沢山ある。人間の体で言えば、例えば1つの受精卵が、精妙な機能を備えた人間の赤ん坊に変身する過程や、母親の赤い血液が、免疫機能をも備えた白い母乳に変わるメカニズム、あるいは我々の体の設計図でもある遺伝子情報が、お米一粒を70億分の1に分割したサイズの一片に、32億個の情報として記録され、それが我々の体を構成している60兆個全ての細胞の中に所有しているという事実など、挙げればきりがない。想像を超えるミクロの世界で展開されている精妙なる構造や機能は、人間が造るAIなどの機械などとは比べようもない。これは明らかに人智を超えた領域である。

これら神秘のメカニズムの断片をたまたま発見し、まるで自らが創造したかのように有頂天になっているのが科学者の世界である。もちろん、科学者の着眼や証明に至るまでの努力と熱意は称賛に値するし、科学の発展による恩恵を否定は出来ない。けれども、気付かなければならないのは、科学者が発見するよりもずっと前から、それは既に存在していたという事実である。

「当たり前」と思っている事柄の中に奇跡を感じ、感謝することを忘れた時、人は何らかの気付きのきっかけを与えられる。健康は失って初めてその有難さに気付くという性質があるが、失う前に「当たり前」と思っている事柄に感謝の意識を向ける努力があれば、変わってくる未来があるかも知れない。

医学博士　木村謙介

北海道大学医学部卒。慶應義塾大学医学部循環器内科専任講師などを歴任。
米カリフォルニア大学サンディエゴ校医学部留学、最先端の基礎医学と豊富な臨床経験を持つ。「大きな病気を発症する前にその芽を摘み取る方が医療レベルは高いはず」の信念で2012年、きむら内科クリニックを開設。

医療法人
きむら内科クリニック　TEL 044(981)6617
麻生区片平5-24-15　きむら内科クリニック　麻生区　検索